

おわりに

大学で4年間心理学を勉強しても「『心理学とは何か』がわからず、その周辺でぼうっと眺めているうちに終わってしまった」という感覚が強かった。留学を決意してからも熱意だけはあったものの、生活と勉学の両方に不安があった。また、入学してからは心理学の研究手法や分析方法なども身につけていなくて、試行錯誤を繰り返していた私が、在学中に論文をまとめることができたのは、周りの多くの方のおかげである。ここに記して日頃の感謝の気持ちを込めて、お礼を申しあげたい。

特に、指導教官である筑波大学心理学系の新井邦二郎先生の丁寧なご指導と激励には厚く感謝の念を捧げたいと思います。こういう形で論文をまとめることができたのは、先生のご指導や支援のお陰です。単純な言葉ですが、心から「ありがとうございました」と申し上げます。

筑波大学心理学系の杉原一昭先生と、桜井茂男先生の適時の貴重なご指導やご助言をいただきました。心から感謝致します。

韓国の嶺南大学の朴 在鎬先生は暖かい心づかいで私の研究の動向について関心を示してください、時々私の勉学への意欲が薄れる度に勇気づけてくださいました。ありがとうございました。

高知大学の丹羽洋子先生は研究構成の段階で、色々と励ましの言葉をかけてください、勇気づけてくださいました。ありがとうございました。

つくば国際大学の大川一郎先生には調査データの収集にあたり、お世話になりました。常に快くデータ収集に協力して下さったこと、心から感謝致します。

山形大学の広田信一先生、東京成徳大学の矢島弘仁先生、ユン 熙奉先輩、姜 信善先輩には、同じ児童心理学教室の先輩として研究、日本での生活、

精神的面においてご助言をいただきました。心から感謝致します。

東京学芸大学の松尾直博先生には、同じ研究室の先輩として適時の有益なご助言やご意見をいただき、励ましていただきました。心から感謝致します。

また、筑波大学心理学研究科の先輩や後輩たちから暖かく励まされ、元気づけられました。ありがとうございました。

青年に対する様々な問題が指摘され、ナーバスになっている中、忙しい学校行事などの合間をめて、中学生・高校生を対象とする調査データの収集に協力して下さった、多くの先生方や中学・高校生の方に、心よりお礼申し上げます。

また、韓国で常に応援し、暖かく見守ってくれた父、母、弟に感謝致します。

最後に、今日も机の上で一緒に朝を迎えてくれた夫は、物理的・精神的に常に私をサポートしてくれ、論文のまとめを心から喜んでくれました。娘の夏恩の楽しそうに笑う姿は大きな喜びや安らぎを与えてくれました。心から感謝致します。

これからは心理学の周辺でぼうっと眺める方ではなく、その中心に立つ方になって、理論と実践の両方の視点からの活動を自由に、かつ楽しくやっていきたいと思います。

1999年2月

つくばにて